

## 県立美術館開館15周年記念

「水辺のアルカディア - ピュヴィス・ド・シャヴァンヌの神話世界 - 」

H26. 3. 19(水)

本日は、多くの皆様にご臨席いただき、誠に有り難うございます。心より感謝申し上げます。

県立美術館は、この3月、開館15周年を迎えました。この間、多くの皆様にご来館いただいております。

お支えいただきました皆様方に、厚く御礼申し上げる次第でございます。

先ほど館長からご紹介のありましたとおり、今回のシャヴァンヌ展は「開館15周年」を記念するものであると同時に、県を挙げて進めてまいりました「神々の国しまねプロジェクト」の一環として開催されるものであり、誠に時宜を得たテーマとなっております。

西洋には、ギリシャ神話など多くの神話があり、古来、数多くの西洋絵画の題材となってきました。

一方、日本では、明治に入り、西洋絵画を学びにヨーロッパに渡ったわが国の洋画家たちなどによって、日本の神話の世界が描かれるようになっていきます。

シャヴァンヌは、そうした中であって、日本の絵画に大きな影響を与えた一人であります。

今回の企画展では、シカゴ美術館所蔵のシャヴァンヌの代表作「諸芸術とミューズたちの集う聖なる森」をはじめ、海外からは、フランスのオルセー美術館やリヨン美術館、アメリカのメトロポリタン美術館、フィラデルフィア美術館など、国内では、石橋美術館、大原美術館、国立西洋美術館など、国内外の美術館や個人の方々、約40か所から作品を出展いただきました。

今回のようなシャヴァンヌ展は日本で初めてのことであります。ぜひ、多くの皆様に、この展覧会をご覧いただきたいと思っております。

終わりに、この「水辺のアルカディア-ピュヴィス・ド・シャヴァンヌの神話世界-」の開催にご支援いただいた多くの関係の方々に厚く御礼を申し上げまして、実行委員長としてのご挨拶といたします。